

七夕祈願祭

日時:平成 27 年 7 月 7 日

夜 7 時より

場所:津観音寺境内

内容:七寺社さまによる
七夕祈願祭

同封しました短冊に願い事を書いて最寄りの七寺社様へ 23 日までにお持ちください。当日も観音寺で受け付けています。

(郵送も可)



■「花蓮を育てて」

渡邊亮正 一心寺住職 (愛西市)

愛知の西のはずれ。木曾川左岸流域に位置する地。周囲を蓮田に囲まれた梵宮 (ぼんぐう) の住人です。

四十代にふと立ち寄った名古屋の園芸店で二種の花蓮を購入。五十代に入り、ご縁に恵まれて三十三種を。六十代で八十八種に、さらにその後百八種に増え、現在は百十三種程の花蓮を育成しております。春、桜の咲く頃より約 1 ヶ月半程かけて植替えを行っています。七十代に入り、手抜きをしつつやっておりますが段々植替えに要する時間は増えております。全部の蓮を咲かせることは至難で約八割ほどしか咲きません。バージニア、明美等黄色系の蓮は一度も咲いてくれず、蓮根だけ育成しているものもあります。泥、水、肥料、光等同じ”因”を与えてもその”果”は異なってきます。”縁”の難しさを痛感させられます。

「蓮の花は君子なるものなり」と古く中国では言われていました。私はそれを”三セイ”と呼びたいと考えています。ひとつはその香り、浄らかな色、形、姿からの”聖”。二つ目は”生”です。大賀蓮の二千年は無論、元をたどれば一億年前にさかのぼると言われています。環境への対応が柔軟です。三つ目は”性”です。花果同時で子孫を残し易く、(今でも新種が作り出されております。) 和合の象徴であるといえます。泥水の中で条件が整えば凛とした美しさの清らか



な花を咲かせます。泥水の汚れの中にあっても染まらず清浄さを保っています。まさに寺域にふさわしいシンボルフラワーです。

金子みすずの詩に「泥の中から 蓮が咲く それをするのは蓮じゃない・・・」とあります。泥、水、光の他に目に見えない天地いっばいの力が働いて開花するのだと歌っています。開花の折には音は聞こえません。が泥水の中に芳香を放ち清らかな花が咲く時は手をあわせ拝みたくなる時でもあります。

又仏典には「高原の陸地 (ろくじ) には蓮華を生ぜず 卑湿 (ひしつ) の淤泥 (おでい) にいまし蓮華を生ず」の句があります。これは汚泥すなわち煩惱を表わし、煩惱あればこそ真理を求め、悟りに目覚めると言うことを意味しております。

泥の中にあっても泥をいのちとして咲く華であり、泥の尊さを表現しています。そしてそれに気づくのも自分の力ではなく、たくさんの泥をかぶっていくご縁の中で、はじめて気づかされることです。又阿弥陀経には「池の中に蓮華あり 大きさは車輪の如く 青色には青の光 黄色には黄いろい光 赤色には赤い光 白色には白い光ありて 微妙香潔なり」とあります。色々な色の蓮華が咲くように、私達の各人各人も異なる光を発して、みんな平等に尊いということであり、この蓮華は世間という泥沼を生きる私達に勇氣と希望を与えてくれます。つまり泥中の蓮 (はちす) は各種のつながり、縁起の中で花を咲かせ、仏教の求める世界は日常生活の中からうまれるのだと言うことを表わしていると思います。



■「豊のゆたかと裕のゆたか」

丸子孝法 永平寺副監院 (福井県)

大阪の里みちこさんは詩人で、大阪城公園で人々とラジオ体操をする活発屋さんです。彼女の詩に『豊と裕』があります。

いっぱいあるのが「豊」
まだいっぱい入るのが「裕」
どっちのゆたかがゆたかかな
ゆとりがあるのは どっちかな
里みちこ詩集『さながら』の中にある詩です。満たされた生活は豊のゆたか。ゆとりをもって生きていくのが裕のゆたかです。

どなたかの俳句に「持ちきれぬ荷物の重さ前うしろ」とありました。私など満たされても満たされても、更に満たされることを求めて生きてしまいます。

少しゆとりを持って「裕のゆたか」を求めて生きていきましょう。お釈迦様は、最後の説法で「少欲知足」を説かれました。福を求めることを少しひかえて、他の人々に福を与えるゆとりが、本当の幸福です。

■「和紙のはなし」

三藤治喜 ミフジ株式会社（津市）

昨年、「日本の手漉き和紙の製法」が、
世界文化遺産に登録されました。



具体的な和紙として、岐阜県的美濃和紙、
島根県の石州和紙、秩父の細川和紙（小川
和紙）となっています。越前（福井県）や因州（鳥
取県）といった今でもたくさん和紙を作っている産
地は、どういう訳か上がっていません。遺産ではな
く現役ということでしょうか。

ここでいう和紙は、楮を原料として、流し漉きの
手漉きで作られた、明治以前からある紙を言います。
明治期に西洋式の抄紙機が輸入され、それ以降大量
生産可能な洋紙が主流になりました。

少し前までは「紙は文化のバロメーター」という
言葉が業界にありました。情報の伝達手段、記録手
段として、安価で取り扱いが容易という素材の利点
が文明の成長に非常に相性が良かったのだと思い
ます。歴史的には正倉院の宝物の中に唐紙でできた
経典のほかに、日本で作られた紙があり、奈良末期
（8世紀から9世紀）には国内で漉き流しの技術が
確立していたと想像されます。

紙の数え方はいろいろありますが、半紙の場合の

単位は一匁＝10帖＝100束＝2,000枚です。
厚さは匁で表します。薄い紙と厚い紙の違いが原料
の分量であり、すなわち重さになります。販売は一
束単位で価格がついています。重さ単位の価格でな
く、枚別価格です。

さて、機械で和紙の原料を抄く（すく）と和紙と
いえるのか？パルプを手漉きすると和紙なのか？
海外生産の手漉きの紙は和紙なのか？いろいろや
やこしい問題がありますが、正確な定義はありませ
ん。和紙っぽい風合いの紙を総じて和紙というみた
いです。ちなみに中国から持ち込まれた紙は唐紙と
いいます。

私的に和紙を定義するならば、次のようになりま
す。「和紙」の「和」は「日本」を表わすのではな
く、いろいろな文化、手法を取り入れて、この国の
風土にする「調和」の「和」ではないでしょうか。
われわれ日本人にとって和紙の風合いは馴染みや
すく、いいものです。これからも和紙を
ご愛顧いただけたらと思います。

宝覚寺禅寺を訪ねて思う（台湾台中市）

倉島昌行（四天王寺東堂）



H27/5/16

堂中の衆は、乳水のごとくに和合して、
たがひに道業を一興すべし。

いまは、しばらく賓主なりといえども、
のちには、ながく仏祖なるべし。

しかあればすなはち、おのおのともに
あひがたきにあひて、おこなひがたきをおこなふ、
まことのおもひを、わすることなかれ。

正法眼蔵より

《伊勢の津七福神友の会事務局》

〒514-0033 津市丸之内 27-16 高山神社内

電話：059-225-8558